

■ ほたて養殖発祥の地

昭和8年、“常呂のほたて”の安定生産を目指し、当時の水産庁北海道試験場の木下博士と現在の「帆立屋しんや」2代目新谷廣治は、サロマ湖での帆立養殖事業への取組みを始めました。



▲ほたて養殖発祥の碑

二人の取組みの前には、北海道ならではの厳しい冬の越冬技術等、幾多の試練が立ちはだかりましたが、試行錯誤の末に現代の帆立養殖の礎を築くに至りました。

その後、安定した帆立の生産技術を確立した常呂町は、遂に昭和60年代にホタテ水揚げ高日本一を達成し現在は、日本有数の帆立の産地として名を馳せています。また、サロマ湖産の稚貝は猿払村等、道内外の他の帆立の産地へ出荷され、帆立の生産基地としての役割も担っています。

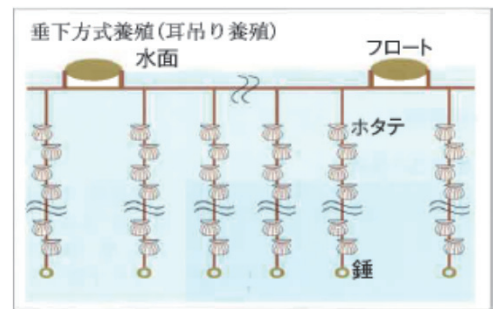
<帆立屋しんや ホームページ引用>

■ ほたて養殖方式

サロマ湖のホタテ養殖技術は、真珠貝の養殖にヒントを得たもので、水面にロープを張り、そのロープに核の種を付けた貝殻を吊るす方式です。

この方式は、ホタテ貝の天敵は海底に潜むヒトデから、稚貝を海底から離すことで守れます。

貝殻の耳に穴を開け、海に吊るすことから「耳吊り養殖」と呼ばれています。



■ ほたて豆知識

Q.ホタテを帆立貝と書くのは？

A.ホタテ貝は強靱な貝柱を使って、海水を吐き出し、海底からジャンプして移動します。

ホタテは漢字で「帆立」と書きますが、これは殻を開いた姿が帆掛け舟に似ているためで、昔は海中でもそのままの姿で泳いでいると思われていたようです。

Q.ホタテのもオス・メスがあるの？

A.オレンジ色に卵をもつのがメス、クリーム色の卵(生殖腺)がオスです。ホタテは生まれてから、ほぼ1年間は全てオスで、その後成長と共に、ほぼ半数がメスに性転換します。

■ カキ・北海しまえび

サロマ湖の特産品として夏の北海しまえびは31トン、冬の名物牡蠣貝は75トンの水揚げがあります。